

平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ブラザクリエイト本社
 代表者の役職名 代表取締役社長 大島 康広
 (JASDAQ コード番号 7502)
 問 合 先 常務取締役管理本部長 村瀬 伸行
 T E L 0 3 - 3 5 3 2 - 8 8 2 6

固定資産の減損損失の計上及び業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の連結業績の予想値と実績値で差異が生じたのでお知らせいたします。また、平成 30 年 3 月期における固定資産の減損損失についても合わせてお知らせ致します。

記

1. 固定資産の減損損失の計上について

平成30年3月期において、当社が保有するプリント店舗ならびにモバイル店舗の固定資産について減損の兆候が認められたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、減損損失として73百万円を計上することと致しました。

2. 平成30年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回業績予想 (A)	22,000	300	200	100	7.88
実績値 (B)	22,172	61	93	△58	△4.54
増減額 (B - A)	172	△239	△107	△158	
増減率 (%)	0.8%	△79.6%	△53.2%	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	21,991	105	△175	△46	△3.52

3. 差異の理由

平成 30 年 3 月期の通期業績予想につきましては、プリント事業におきまして、既存店売上前年比は100%で推移しましたが、新サービスの生産拠点となる工場の移設費用などにより想定外のコストが発生しました。また、当生産拠点を利用した新サービスを当期中にリリースする予定でしたが、生産拠点の稼働遅延により次年度（平成 31 年 3 月期）4 月以降となったため、当期中での店舗売上が見込めなくなりました。

モバイル事業におきましては、店舗数増加に伴う販売台数の積み上げなど堅調に推移し、通信キャリアの施策変更に応じた店舗運営力の強化に取り組んでまいりましたが、上期に先行した投資が想定以上に増加した事もあり、当初予測しておりました収益までには至りませんでした。

また、当第 3 四半期で行った当社グループの組織再編等により発生した経費（不動産登録免許税など）が計画差異として発生いたしました。

上記内容により経費が先行して発生したことなどが収益を低下させたことを主因として、営業利益、経常利益共に、業績予想に比べ減益となり、当初予想を下回る見込みとなりました。

加えて、上記 1 による固定資産の減損損失を特別損失として 73 百万円計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回の予想数値を下回る見込みとなりました。

以上